

リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 中川賀嗣 poverame@hoku-iryo-u.ac.jp 若松千裕

【概要】

高次脳機能障害とそのリハビリテーションについての実践的手法を学ぶ。

【学修目標】

一般目標：高次脳機能障害研究の現状を理解する。

行動目標：高次脳機能障害の各症状に対するリハビリテーションを理論に基づいて実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～7	高次脳機能障害研究の現状	高次脳機能障害研究の現状についての基礎的手技を総括する（失語、失認、失行や前頭葉機能障害、記憶障害、脳梁損傷ほか）。	中川賀嗣
8～15	失語、高次脳機能障害（認知症、前頭葉機能障害など）にかかわるリハビリテーション	脳血管障害、神経疾患における認知症の評価、認知リハビリテーションについて学ぶ。	若松千裕

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

演習後半の技能を評価する（口頭での説明50%、技能の到達度50%）

【教科書】

高次脳機能障害に関する標準的評価課題や学術雑誌の内容に基づいて行う。

【学修の準備】

予習：マニュアルや文献の読み込み等を十分に行う（60分）

復習：各高次脳機能障害評価法の特徴をよく復習する（100分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域において、学際的視点を活かしながら、先進的かつ独創的な研究を自律的に遂行するための高度な学識と研究能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

若松千裕（言語聴覚士） 中川賀嗣（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床経験に基づく講義を行う。